

# 経費精算のIT化で、企業は コア業務に集中し、 競争力を高める

多くの企業が生産性を高めるための施策を講じている。しかし見落としがちなのが経理部門、中でも経費精算業務には驚くほどのムダな作業が発生している。この効率化をITによって実現するのがラクス「楽楽精算」。これを活用することで経理はコア業務に集中でき、ひいては企業の競争力も向上するはずだ。そこで、ラクスの本松慎一郎氏と、「楽楽精算」のユーザでもある二人の専門家、企業経理の実情に詳しい市川琢也氏(辻・本郷税理士法人)、経理業務のBPOで確かな実績を持つ中尾篤史氏(CSアカウンティング)に登場いただき、経理のIT化や今後のありかたについて語り合っていた。

## 属人化しやすく、効率化の困難な経理業務を変える

**中尾** 日本の産業界の弱点の一つとしてホワイトカラーの生産性の低さが指摘されてきました。とくにサービス産業の一人当たりの生産額は非常に低いといわれています。ここをどう効率化するかを考えると、コア業務以外の、定型業務

— 経費精算業務の効率化。その小さな一歩は、  
企業の大きな成長へとつながる —

辻・本郷税理士法人  
BPO法人部 部長 税理士

## 市川琢也



のやり方を変える必要がありますね。それがIT化やBPO (Business Process Outsourcing) です。

**市川** 同感です。私も税理士として企業の経理部門のコンサルティングを行うことがあります。経理業務においては伝票作成、支払い、数字の確認などの定型業務にばかり時間と労力をかけ

ていては生産性は上がりません。ある程度以上の経験を持つ経理担当者は、資金調達や財務戦略など、もっと経営に直接貢献する業務に集中すべきです。しかし、これがなかなか難しい。

**中尾** 弊社では経理業務のアウトソーシングを行っています。依頼を受ける際に経理部門からいただくお声として、「ベテラン担当者に任せきりにした結果、ノウハウが属人化してしまった」という会社がすごく多いです。経営者の代替わりなどの節目がない限り、従来のままのやり方が続いてしまうのです。

**本松** そのためにIT化が進まず、未だに紙やエクセルの経費精算書を使っている会社が、かなりの数に上るんですね。

**市川** しかし将来を考えればIT化は避けて通れないことは明らかです。たとえば

経費精算なら、コストは所要時間と人数で決まりますから、ITを活用すれば、利用が増えるほどコスト削減効果が出ます。意欲ある経理なら、IT化に向けて舵を切ってほしいと思います。

## 手作業を自動化し、 コア業務に集中する

**市川** ところがIT化によって経理の負担が激減することすらご存知ない会社が多い。経理の実態は減多に社外には出ないので、他社を知る機会もありません。

**本松** まずはIT化のメリットを知ってほしいですね。経費精算業務を例に挙げるとまず、人手のかかる非効率作業を自動化できることが大きい。これを紙ベースで行う場合、経理が申請内容を一枚一枚正しいかどうかチェックし、集計、仕訳をして会計ソフトに入力します。さらに各社員への振り込みデータも1件ずつ手入力しなければならず、こうしたやり方には限界がきています。これをITで自動化すれば、入力や確認の手間を省けます。その結果、経理はコア業務により多くの時間を配分できるのです。それまで4回も5回も同じデータを打ち込まなければならなかったのが1回で済むようになる。作業時間を大幅に短縮でき、ミスの防止にもつながる。BPOと合わせてIT化すれば、さらに効率化できます

ね。もう一つ、どの項目にいくら経費を使ったか把握できるため、経費の不正受給を防げるというメリットもあります。「楽楽精算」では、宿泊代の上限や、事前申請金額を超えた精算をできなくするなど、あらかじめ自社の規定を登録することで自動チェックさせることができます。また、交通費精算の場合、乗換案内が内蔵されており、経路を入力するだけで交通費が算出されます。その経路は「早」「安」「楽」のアイコンが表示され、正しい経路が選択されているか、金額が妥当か等、上司や経理は簡単にチェックができます。また、定期区間を自動控除してくれるので確認の手間が省ける他、重複区間の交通費の過払いを未然に防ぐことができます。

**市川** 今は海外に進出する中堅企業も増えました。

**本松** そうですね。海外出張時にドルやユーロで購入したものを最終的に円建て処理することも、ITなら簡単にでき、便利だと思います。

## 細かいニーズに応え、 その経営強化に貢献

**中尾** 経理業務の中でも特に経費精算は、最初にIT化をしやすい領域と言えるでしょう。経費精算のシステムはいくつも出ていますが、ラクスの「楽楽精算」を

初めて見たときの印象は鮮烈でした。直感的に使い、これならキーボード操作が不得意な人でも簡単に精算作業ができると思いました。スマホにも対応しているから、上司が不在のときでも承認、申請を依頼できるなど、業務スピードも格段にアップします。

**本松** いきなりIT化という現場から戸惑いの声があるかもしれませんが、実際に情報システム部門がないという導入企業様も多くいらっしゃり、操作性については高い評価をいただいています。導入社数は現在850社(2015年7月1日現在)に達し、この分野でのシェアトップになりました。

**市川** 税務の立場から見ても、クラウドシステムで精算処理されていると、検索しやすく、問題箇所を探し出すことも、逆に問題がないことを証明することも、まさに楽楽! です。

**本松** お客様がこれまで使ってきた精算書のフォーマットと同様のレイアウトにできる、複雑な承認フローは条件を設定するだけで簡単に構築できるなど、個々の企業の状況に適応できる柔軟性も特色です。一度使えば、その利便性、効果にご満足いただけたと思います。ぜひITに対して食わず嫌いにならず、「楽楽精算」を試し、経営強化に活かしていただきたいと思っています。

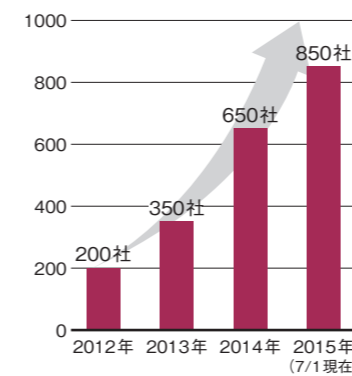


株式会社ラクス  
執行役員  
クラウド事業本部 営業統括部  
統括部長

## 本松慎一郎



## ●『楽楽精算』導入社数実績



◀ラクスは成長するにつれ、経費精算業務の負担が拡大したため、自社技術によって経費精算システムを開発した。これを原型にしたクラウドシステムが「楽楽精算」である。2009年に発売以来、急速にシェアを拡大中。

CSアカウンティング株式会社  
専務取締役  
事業本部 本部長  
公認会計士 税理士

## 中尾篤史

